



今月からシリーズで町の企業を紹介します。

森田製作有限公司



森田 博英 社長

昭和十八年に祖父が東京から疎開して金属の部品加工業を開業し、昭和三十三年に父が森田製作所を創業いたしました。その後、昭和六十二年に森田製作有限公司を設立し、平成十年より先代の後を継ぎ、わたしが社長に就任し現在に至っております。

当社は精密機械器具の製造をする会社です。太陽電池の製造過程に必要な設備部品、ガスコンロの安全装置・自動車を製造する生産ラインの部品、商船や客船など大型船舶のジャイロコンパスといった計器類の部品、プリンターの排紙部分などにあるローラーシャフト、空調設備のジョイント部品など、多くの部品を切削・研削加工しており、町内の企業様との取引もございます。

今年度、当社の「へら絞り技術」が東北・北海道でただ一社の技術として、県科学・ものづくり振興課が発行する岩手ものづくり基盤技術PR冊子『いわての技』に取り上げていただきました。

わたしは、会社自体が一つの社会であり、従業員の各年代に重要な役割があると思っております。おかげさまで当社は十五人の従業員に恵まれ、一人一人の技能で成り立っており、ベテランの者が若い者に技術を継承していく体制作りをしております。

最後に、住宅地の中にある工場として一つ悩みがあります。工場の改築や増築を考えたとき、現在の住宅区域には建築できない規制があることです。慣れ親しんだ地域で続けられる様な、中小企業に配慮ある政策をお願いしたいものです。

※へら絞り：一本の金属製のへら棒により、あらゆる金属を絞り加工する技術です。機械プレスで加工するより耐久性が優れています。森田製作所は、多くのへら棒から最適の一本を選び出し、その棒のみで目的の形に金属板を絞る技術が東北・北海道で唯一の会社です。

大峠輝幸さん（38歳）勤続11年

わたしは町外の出身ですが、この町は交通の便も良く住みよい町だと思住居を構えました。職場から運動公園が近く、高校野球の県予選が開催されていたころはとてにぎやかでした。是非、復活して欲しいものです。わたしは工業高校を卒業し、一度盛岡に就職しましたが、どうしてももの作りをしたいと思いこの会社に転職しました。金属などの素材を加工し、図面どおりの型に作り上げていく今の仕事は作る楽しみがあり、とてもやりがいがあります。現在、数値制御式の自動機械を使っていますが、品質の良い製品を作るためには経験や技術が必要だと思っていますし、寸法の狂いは、信頼を失うことになってしまいますので、いつも気を付けています。また、技術力向上のために技能検定を受検させて頂き1級を取得することができました。就業後や休日に練習する時間を頂き、整った環境の中で力を付けることができましたので、会社や従業員の皆さんに感謝しています。先輩方の技術やノウハウを受け継げるよう努力し、社訓にもある「挑戦なくして成果無し」をモットーにチャレンジ精神を持ち続けて仕事をしていきたいと思っています。

